

令和七年度 岡山大学学位記等授与式 式辞

本日ここに、卒業生、修了生の皆さんをお迎えして、令和七年度学位記等授与式を執り行うことができますことは、皆さんだけでなく、ご家族や関係者の皆様、そして私たち教職員にとっても、誠に嬉しく喜ばしいかぎりです。

皆さんは、本学に入学前からそして入学してからのしばらくの時間を、ウィズ・コロナそしてその後のアフターコロナのもとで過ごしてこられました。皆さんのこれまでのご苦勞に敬意を表するとともに、皆さんのご家族とともに、今年度の学位記等授与式を挙行できることを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、ご家族や関係者の皆様に、岡山大学を代表し、万感の思いを込めて、ご卒業ご修了のお祝いを申し上げたいと思います。本日は、誠にめでとうございます。

私は令和5年4月の学長就任に際し「不易流行の大学経営」を提唱いたしました。「不易流行」は今日のキーワードです。この3年間、学内外でずっと言い続けてきたことであり、皆さんもどこかで目にしたり、耳にしたことがあるかと思いますが、ぜひ記憶として留めておいて下さい。「不易流行」は、松尾芭蕉の俳諧の理念であり、時代が変わろうとも不変なもの・

変えてはいけないものを「不易」と言います。また、時代の変化、社会の要求や期待に応える形で変化させていかねばならぬものを「流行」と言います。改めて皆さん自身にとっての不易流行とはなにか、ぜひ、卒業後も折に触れて自分事（ごと）として考えていただきたいと願います。

私は大学経営における不易流行の「不易」は、岡山大学に関わる過去・現在・未来の人々（マルチステークホルダー）の持続的で多様な幸せ（well-being）の実現を追求することと定義しました。そして、「不易流行」の「流行」は、国内外の社会情勢を見極め、国の施策や地域の思いを先取りし、形として先導する組織経営改革・人材育成・研究開発などを行うことと定義しました。

私が学長として経営の根幹に据えている「不易」の部分において、学生の皆さんは最も大切なステークホルダーであり、岡山大学が一体となり「誇りと希望」を醸成する中心的な存在です。そのことは卒業後も変わりません。そして、本日参加のご家族の皆様も岡山大学にとっては大切なステークホルダーであります。卒業後も同窓生として様々な形で皆さんと関わってまいりたいと考えています。

卒業生、修了生の皆さん自身が人として生きる際に根幹に据えるべき

「不易」として求めていただきたい姿勢は、自分自身のことのみならず、家族、友人、地域社会、そして地球のあるべき姿や課題について想像力豊かに思いを巡らせ、いわゆる「利他の心」をもって自分自身ができることを主体的に考え、新たな価値を創り出していこうとすることです。言い換えれば皆さん一人一人が主役（主体）なのです。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、皆さん一人一人の生活のみならず人類社会に大きな影響を及ぼし、不確実性に満ち溢れ予測不可能な未来を自分事（ごと）として改めて考え直す機会となりました。地球温暖化に対する脱炭素社会の実現、デジタルの力により誰一人取り残されない社会の実現も間近に迫った他人事（ごと）ではない課題です。

私は、45年前の1981年、昭和56年に岡山大学を卒業しました。いま振り返れば本当にあっという間の45年間でありましたが、在学中に得たよき友、よき師との様々な交わりは私自身の間としての成長や仕事のキャリアなどに大きな影響を与えた何者にも代えがたいものであり、岡山大学で学ぶことができたことを人生の誇りに思っています。これこそが「岡大愛（LOVE）」です。卒業生、修了生の皆さんにも「岡大愛（LOVE）」を持っていただきたいと心から願っております。重要なステークホルダーで

ある卒業生、修了生の皆さんが「岡大愛 (LOVE)」を色あせることなく、卒業後も醸成していただけるよう岡山大学は様々な形で皆さんと関わってまいります。

私は卒業から今日まで様々な経験をしました。多くの楽しみや喜びを経験しましたが、自分の力が及ばぬ挫折、どうしようもない絶望感、出口の見えない袋小路、後ろがない絶体絶命の崖っぷちの状況、まんじりともせず迎える朝などを経験することがありました。

コロナ禍において皆さんは、過去の卒業生、修了生とは比べ物にならないくらい多くの困難に遭遇したことと思います。しかし、それをどのようにして克服して今日の日を迎えたかを、色褪せることなく記憶にとどめ思い出してみてください。デール・カーネギーは「悩み」ということについて様々な示唆に富んだことを教えてくれています。私自身、困難に遭遇した時に救われ心が軽くなった言葉があります。「1年前に思い悩んでいた事柄を思い出してください、そして1年後その悩みはどうなったか考えてみてください。2年前、3年前、4年前の悩みについてはどうでしたか？覚えていますか？」皆さんも振り返ってみてください。多くの悩みは「何とか」なっています。そう、多くのことは「何とか」なるのです。

しかし、「何とか」ならず、大きな壁として行く手を阻む悩みや困難もあります。そんなことは一度や二度ではありませんでしたが、私を勇気付けてくれた言葉があり、それを紹介することで皆さんへの饒（はなむけ）の言葉といたします。それは『孟子』の言葉です。

「天の將に大任をこの人に降（くだ）さんとするや、必ずまずその心志（しんし）を苦しめ、その筋骨を勞し、その体膚（たいふ）を餓えしめ、その身を空乏（くうぼう）にし、行いにはその為すところを拂乱（ふつらん）す。心を動かし、性を忍び、そのよくせざるところ曾益（ぞうえき）するゆえんなり」

訳）天（神々）が、その人に重大な任務や使命を与えようとするときには必ずその人を苦しめることから始めます。まずその人を精神的に追い詰め、志が折れてしまいそうな状況に陥らせる。そして、肉体的にも疲労困憊なボロボロの状態に陥らせる。そして極貧の状況にまで追い落とし、やることなすことすべて思い通りにならぬような（絶体絶命の）事態にまで追い詰めていくものなのです。それは、天（神々）がその人の心を鍛え、忍耐力を増大させ、通常ではできないことをできるようになるまで鍛えることで大任を負わせるに足る人物に育てようとしているからです。

大きな困難に遭遇したとき、そのことを悔やむのではなく、それは自分を磨くための試練であるとポジティブに思えること、ポジティブに思うように努力することで気持ちの持ちようがガラリと変わり周囲の景色が変わります。そして気持ちが楽になり新たなアイデアや気力が自然と湧いてきます。逆境や試練は乗り越えられる人にしか訪れません。本日この後に「孟子」と「天」というキーワードでインターネット検索をしてみてください。関連のウェブサイトがたくさん出てきます。今はピンとこない方のほうが多いかもしれませんが、しかし、この言葉を心の片隅にとどめておけばいつか必ず救われる時が来ます。

人生 100 年時代のいま、皆さんが本日迎えられた卒業・修了は、文字通りの“終わり”を示しているのではなく、皆さんにとってここから本当の「学び」が“始まる”ことを意味しています。ぜひ、皆さんも 4 月からの活動拠点を「新たな成長の場」としてしっかり認識していただき、生涯にわたり学び続けていただければと思います。

もちろん私たち教職員も、本学の同窓生として重要なステークホルダーである皆さんの更なる「学び」を引き続き支援してまいります。

卒業生、修了生の皆さん、これから社会人あるいは大学院生としての新たな生活が始まります。私たち全教職員は、皆さんが、母校岡山大学で学んだ伝統と精神、そして誇り（岡大愛（LOVE））を胸に、それぞれの新しい職場などで、自信を持ってのびのびと活躍してくださることを心から祈っています。そして、またいつかこの岡山大学のキャンパスに、成長した皆さんをお迎えするときに楽しみに、私からの饞（はなむけ）の言葉とさせていただきます。

そして、皆さんへもう一つのメッセージがあります。それは私のパワーミュージックについてです。

突然ですが皆さんはミュージシャンの AI（アイ）さんを知っていますか？知っている人は手を上げてみてください。壇上の皆さんはいかがでしょうか？ 私の同級生の9割は知りませんでした。「ハピネス」、「Story」、そしてNHKの朝ドラ（連続テレビ小説）「カムカムエヴリバディ」の主題歌「アルデバラン」で有名です。最近ではドラゴンボールダイマのエンディングテーマ「NAKAMA」を歌っています。私は、AI（アイ）さんのオフィシャルファンクラブのメンバーであり、昨年7月に倉敷で開催されたデ

ビュー25周年記念公演に参加し楽屋を訪問する機会にも恵まれました。

AI(アイ)さんと岡山大学とはつながりがあります。岡山大学は世界190か国以上から各国を代表する次世代の若いリーダーたちが一堂に会する世界最大級のサミットである、One Young Worldの公式パートナーとして毎年参加していますが、One Young World JapanのオフィシャルアーティストであるAI(アイ)さんと私は一昨年10月SDGsに関する対談を行いました。その際、私は「みんながみんな英雄2024」という曲を知りました。それ以降この曲は私を元気付ける「パワーミュージック」として毎日聞いています。その歌詞を紹介したいと思います。

やるかやめるか 右か左か

選択問題むずかしい

でも正解かどうか考えず

自分で正解に変えればいい

皆さんは今日、この日を迎えるまでを振り返ると様々な決断や選択をされてきたと思います。私も、学長として毎日選択問題を解いています。

そして皆さんも今日これからも、今まで以上に多くの決断や選択をされることと思います。来月からのみなさんそれぞれの進路について、自分の

選択（それはもしかしたらやむを得ず行った選択かもしれませんが）、それが正解だったかどうかは、いつ、だれが、そしてどのような基準で判断するのでしょうか？考えてみてください。正解だったかどうかは他人が他人の評価基準で決めるものではなく、自分の努力を通して自分の心が決めるもの・感じるものです。

では具体的に自分で正解に導くためにはどうしたらいいのでしょうか？次にそのヒントとしてこんなフレーズがあり歌の中に二回も出てきます。

踏み出せば それが道

飛び出せば そこが夢

汗かけば きっと 輝くさ

なりたかった自分が待っている

『決まった道が進むべき道』、あれこれ考えずにとにかく一步踏み出す、行動を起こすこと。そうすると徐々に進むべき道が見えてきます。止まっていたのは心の目が曇って見えません。つぎにその道を汗を流しながらそして難しい選択問題を解きながら進むと、天職と思えるもの、自分が本当にやりたいことが見えてきます。そしてまた汗をかきます。この連続により

人は成長するのではないのでしょうか。

皆さん、一度しかない自分の人生です。しっかり汗をかいてください。

皆さん一人一人が主役・ヒーローそして英雄です。

「みんながみんな英雄 2024」この後（あと）今日の私のメッセージを
思い出しながら、一人でまたは友人やご家族と一緒に聞いてみてください。
是非、お願いいたします。

このたびは誠におめでとうございます。以上をもって私からの饞（は
なむけ）の言葉とさせていただきます。

令和8年3月25日

国立大学法人 岡山大学長 那須 保友